

第31回 精神保健福祉講座

まちで暮らす

～「地域包括ケア」は暮らしの支えになるか～



講師：上野 秀樹 医師

敦賀温泉病院(福井県)・社会福祉法人ロザリオの聖母会 海上療養所(千葉県)・千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部 特任准教授であり、元内閣府障害者政策委員会委員として国が目指している「在宅中心」の体制作りに取り組み、注目を集める精神科医。

認知症の方も精神障害者の方も、在宅で生活していけるということを主張し、精神科病棟転換型居住施設への反対等々、テレビや新聞を通して市民にも伝わりやすく発信されている。

近著「認知症医療の限界、ケアの可能性」は日本医学ジャーナリスト協会賞大賞を受賞している。

日本の精神科医療は長期入院者の地域移行(退院)の流れとなってきました。しかし、精神科医療自体が地域生活を支える形としての整備がまだなされておらず、退院されてくる市民の方の生活を支える力が弱いと言われています。

そういった流れの中、国は「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」という『在宅生活を中心にしていく』考えを政策として進めていく方針を出そうとしています。

講師に認知症高齢者の『在宅生活の継続』に力を入れている上野秀樹先生をお招きし、まちで暮らす一員として、この政策は一体どのようなもので、そして、私たち市民の生活にどのような影響があるのかを皆さまと考える機会としたいと思います。



と き 2018年2月24日(土) 13:50~17:00 (受付 13:30~)

ところ 国分寺市本多公民館 定員 200名 資料代 200円
(JR・西武線 国分寺駅 北口から徒歩8分)

事前申し込みはありません。当日会場にお越し下さい。

問い合わせ先 TEL:042-323-5637 (はらからの家福祉会:作道・毛塚・藤井)

● 主催:社会福祉法人 はらからの家福祉会 ● 共催:社会福祉法人 万葉の里

◆ 後援:国分寺市、国分寺市教育委員会、国分寺市社会福祉協議会、都立多摩立川保健所、都立多摩総合精神保健福祉センター

◆ 協賛:国分寺市障害者団体連絡協議会、国分寺あゆみ会、国分寺すずかけ心療クリニック、はらからの家福祉会賛助会